春人狂言絞切狂言

下

遠13
1713
2上

門へ 13
1713
巻 2

尾州宮下文庫

素人狂言紋切形初編巻之下

江戸戯作者 式亭三馬 戯編

類を友と會るとハ宜あるゝ和詩哥連俳を好む家々其友あつまり。酒色遊蕩を好む人ハ其群をつけこむ。是下不倭の應對ハ。あめくらぢ交跡く。左樣ハ者の取扱ハ。さうぐのうぐのお付合遠〻。さハ浮世ハ三分五厘ハ安ゞ。吾躬を二百文ハ軽〻。まけて金と費を癡呆ハ。

窮鬼の神職あるべく。人情ふ九損一徳を辨へ渡せふ一擲百万と考へ申せぎて銭を設る才子ハ。吉神の別當あるべし。

さて狂言茶番を好べく寝食を忘る遊人秋狸が顔と會る友ゆゑ春狐とたゞめ五七人。まづ一番ハ羅宴のまねをしこうる。孝思横溢練。うゑハのこうもを下きる長月次の食ものも出ぞ。代作をしてのらひしこうを里坐板ちうう自ら刹し。彼絵さしや也。色紙と号けしまぜぐりの絵ゆをちうひ。五ぐづくり繋まるゆゑ。春ふき一名だゆとい出ちうを。薄儀白番と表ぬして收納場へ恵投し。酒屋を吐まるのこあるぞ。青札を所申して。別屋ふ青をあつうへ。竹の皮ふ色を色そ青夏とまる撲暮。はうへふ一の如任ふきちうりのあり。三馬曰かゝる人物ハちうぐう絶てゆし。これハ申ちうしのうとちうがしの。○扨二番ハ澤山玄義。医者の息子で医者をきゝ今。神默思遂ゞ正存をよまぞ。詰子三朝の玄猿をそらんぞ。青嚢及て紅粉医ちうり。

蕪雑もてこれで変雑を祓ち。医ハ意あり。昇ハ郭聞の意あゆゑ。朝上舊郷の方言とともに磨滅せるゆゑ。○扨三番ハ鳥雲たちうぬ肉はヤケとありて。外を出る。能樂者。その能樂の能ハ狂言のまねをして。聞狂言のまねをして。

狂言狂言

一張出てる者ハ。けあくりにかくまもあハ。八幡大名でハ有ぬ。色の黒い中ハ丹くまれ稀ど。口ゆゑふにくまるとあつて。人ふ渾名とよゞ出てる。烏帽子をちうと者でぎる。けゞび万福長者どの主ふ人狂言祝催させるゝにつて。我らゆもあんぞ紋せよと作付らまてさうあぐゝあまり長いるゞちやにようて。ちぎん失念いくいていうぐぶ。たのうぐ人でふあけまど。山家のあるゝに指南いこそ

のらくらとあるく。ゑぺくく。（工）何角とヤもとの小早くれちゃ。先
案内をこひまをせう。物ヤ。案内ヤ。（ト）魚の肉をまくりあるくまくらめそ。ちら
ちゃ。あるど。狂言ハ多くたくさんの
ちくくこらえて。（狂言）「春ハ物ヤとある。（笑）「物ヤ。（狂）「物ヤとハ。（笑）「イヤ
某でござる。ハちむくまの開山。だりもとれの物ヤ寺ゆゑ。二日
酔でたまらぬく。（狂）「ひさしいこほり者ぢ。（笑）「サテく西へ乳き
まぐまま遠入くく。（トうたて入れ言葉。陸練。（狂）「ヨウ。（トもとくく皆おゆされ。
サテくあるりぬく。春狐ヤも先刻くく待ひさ。飛頭蛮の反吐
とのふ刃で。頭を長く縮くしてぞ。（ト声をきくつけて。春狐今一人
大屋の店助。奥の間くくらで

ありげうさん。（ヤ）（ト）是ハ親方ぢ早いるる子。（三人）ヤどうあるくく。春狐
おこゑ申く。
さん。（ヨウ。こハ〳〵。小さ大屋さゆはゑ。（店助）「こうう癖をいふ
ぜく。（ヤ）あやまりく。（サテく）おまハ持病の肉損がおこりく。
せろ稼くく。世の中に二日酔ゆどさえ稼く物ハあるめく。淮ぞ
金勢丸を持居る者ハ稼くら。（春）「ヤットありく。（ト）三馬家製多ひぐゆ
二日多ひどくけーそら
一乃の妙薬とのふ（ヤ）「持くきものハ丸薬ゆるぞ。ゑく悪い語路ぢ。あり
金勢丸を出こゑ。
がくく。ユリく。ちのさ大屋。ちぐどろ憚ぐぶ白湯を。（店助）「又いふよ。
（ヤット）開口。（店助）「開口ハ白湯汲を顔ぞ。（支給）（ヤ）「三日高慢ぢゑれば

其智たるがごとし。ちらと聽き得人肉ふぢごろが上達でこそ。ぢや。
小さい大屋と云ふ人は。「小さい大屋といはれても仕方ぢやの。か
めのかきえんは大丹精ぢ。「そのおかげでやっぱり大屋ぢ。今に
なって地主もあらう人僅五両で三間に小間者のかりさん。
秋「ヨウ〳〵寺岡おりぢて。「おらァこりゃ大屋さまといふまる
ぶは大嫌ぢ。芝居を見に行くふ。故の高慢屋が仕ぢ。立
者の仕様ぢ。「操狂言の座屋と。寄席芸の大屋と。
「ちがふ役ぢ。秋「トキニ満練さん。久〳〵名高い少様子。「俗

用ふおぼえてさっぱり俗ぢ。「山宮新のふことぢ。せん〳〵芝田町
とろのふ所を通りやっぱりおやっぱり如ぢ子抱て居やっぱり。
傍の人がおもて辻君ぢとふらう家でよっぱり。秋「ハテナ。「子に
世話が焼ぢの紙子ぢの物。貧乏ぢ。貧乏ぢ。さっぱりおのうめ。ち
と図字病もあるられど。俗物いちりやもう人。「ちの〳〵ぢ。「お
主人秀逸ぢ。「リりや肉湯。トのちる「おらぢて人。ちく酒人の心屋
らぢ。その心あちは世の人ぢは人。トト撲にあらう。無疑で
もあんでも様人ぢ。ゆるさっぱめぢ。「小説家ちくば間話休題。

岡白駒が澤〳〵と通り。むざだあ〜ふさてあきス。サテト。万福が内の狂言、極りさどやァ極へか。「五大力と紙つくぐ。左増減をてつかぎハこと〳〵ぐ書や〳〵こ。家に一夜漬の浄瑠璃を出さとはのうだが。そろふ物が道具にふろくテ。山ゐる新ら〳〵い迷子があるとやし〳〵。先刻弟知ごらうぐ。百成屋千左郎ぐ示のおぐく陳と。個市乃長左ろが迷子にあるさ。勿論あの晩ふ行方ハ知ませ。つまて房〳〵が。何も子細ハあ〳〵さ。あのうと長左ろのやと赤〳〵ふ〳〵。お長米左ろとのふ浄瑠璃を付るつのうぐ。

「あのうァとあらう。「いうそ地狂でおぐく長左郎としちやァどうだ。「それぢやァあまり内ぐ。あうう偉りがあつてハよくゆくらお長半左ろさ。「一体お米長左ろとつ名ハ作者の働いさ〳〵んぐ子。長と半で對をなるさ内がめぐ。「あのうらあうお大小左衛ろとさるぐ。大とふで對を彩る。四文字で小説のうう印と彩る利ぐ。「アゝく。「ヲツトく。詰分両頭ぐ。却説〳〵きそく。サテモさ。岡白駒が澤〳〵と通りる。「コウ一く岡白駒ざの。さう澤らぞともの通ぐ。「シカシ近来の浄瑠璃ハあのく小説の文字を

切抜てあやを。一五一十で「いちぶ志ぢう。看一看で「ちゃんと分る。
見を」と分るれば。甚分三七二十一ざの。二進ぐ一十のと僧居
の文字をあるぐあれハ俗諸本を分て出のぢや。「ヨツトク。
それ紙いハれてハ戯作者同ぢ。あまり穿つて涙を出ス
不風流ざの。トキニ お長半左ゑハ當振で所作がある。ソコデ役
割ハ手左門さんが半左ゑで。店助さんが お長婆さ兼所へお
定ゑ丸通を。桂の赤紙あの〜らって。浪板成二三枚。桂川乃
いきゑで 振りとゑ 制れ。家ふ店助さんが お長婆で白

髪ぐぼゑ。まんて振ハよろ〜〜さ。ソコデ寒ぐ丸顔の前髪ぐぼ
らで。半左ゑの振よろ〜〜く。例の紋切形で お長が半左ゑを負
て居る。「ヨツトク。ちと お待そのファいぜ。結ゲチト雑ぐ。
ハテ。手左ゑさんハ裁おろ〜〜四尺二寸の着物を長る大男ぐ其
上に酒ぶとりで。お手丹さえら丑かヨイ〜〜ぐんてある。おまぐ
體ハ二尺八寸の長物を長るハ花なの小さ大原ぐス。きさんをお
ぶって居ンる。おぶ押つぶされる。そりやァあう所作所ろ上ゑう
炭潰されて地獄落の薬ぐ。「ゑりとそこもあるの。「そこ

所の命勝負ぞ。「是ハ爺ん」といふてこちや。大分ゴロくちと
まうしまう。「コウ〳〵。そこぶゾル。ちのぶ八ぶ。真鯉でハ大丈夫の
役者ぶも出来ぬ。春「そこを客ハ粗言ばかりあるゝ。浮身
でふうりとかゝれ。右「あの大體で浮身ゑび大馬鹿の浮身ぞ。
左「ヘンなまゝ行く。秋「ヲヤきめて玉ゑ〳〵。隨分ゑゑよ。「ハテ
関元の女房ふゐ丈夫の契行ハぶ。右「それもさうぞの。コウ寒
さん法柄しておぶんぞんぬ。「ウニヤどろもうとおぞ出る。春「没
生役ぞ。二人りで九役ぞ。左「紙金をそれゝど没りやア。秋

仁の小言ハきろ行く〳〵。右「遠行く。「其所作ハけるゝの。秋「あゝ
にいけ行くでき。「ゑんでもあゝ〳〵たゝぷりがく。左「悪おちの
行くゑうにさ。春「チット おゝぶゝ行るめんせ。右「茂頭ゑうゝ。「間鴻
の用ぐもゝぶゝく。右「遠行く。秋「そこでト。係ハ彩いうめんぞ。
ト本ゑゝふかる丙ゝ方稲の手代。又義吃の又義ゝとゝふ男入まり。
「ゴゴゴ 出来ゑさうませ。右「ゑゑ
秋「狸さうゑハゑゑ稲でおざうゝまゝろう。左「アイどゑゝ。右「小声吃又ぶ
声ぐゝ。「ヲイ又義ゑん。又小声ゑゝ。皆ハだまゝて居ゑ。扨ハぶ
せきこうゑせて。ぐゝ〳〵と扨の命行くゝふゝしてゑせよう。ト早言

ヤ又三郎さんよくあがらかく空あそび狂言のるすじ
らう。サアく〻こゝサア家へ。おあがり。おあがりサアく〻おあがり。サア皆あがり
あがり皆居りやと皆居りやと。トまつくちにさうさとつぶけていのりけ
ごろとせきこむだろう。のどくわちのつゝえさ又
ぢうかうこちやてやうく〻陸そまをあけ。
こゝゆゑ尾声ア〻ア〻ア心ゆてハ。「そざりまゝとのふ又
まるれど。他の耳あハざらとだろうきこゆるあり。「ちゑ秋狂さるふ。
秋「アイく〻あろちくおあがり。又「まあ今貝ハけけ結搔ふ。もくお
天郎ふござり。そそら夫ふつきまゝておあ風呂あさるうら。明
明明日あがり拵ぢ〻まちうら。あゝ相成ます世うるくゝ。明

明明後晩あさりハいくいくぢ〻ござりあせうら。秋「アイく〻ちう
よりく。市にとハ遠紅。コウアイあさる通う連中あつまつてゝふ
ぐ誓吉さ。又「ハイッ。ハイく〻ちく。秋を「さぞおゑ迎ぢらうおあ
ヤ也。又「ハイッ。秋「ヲ。トキニト。ゝふハ誓吉で聖日ぐ形ぐさう
よつて。春「コウく〻西全さうハいくあくぜ。去「つけくそ。拵ぢうひ近ハ。
大ろうくぜ。「雛子方ぶあちらう来る筆ぢうう。まぢ四つて
狂あぢうる。秋「勿論あちでも。何う狂言ぐあるさうさ。「ひよ
つとまるとひとりふあるといあるぢ。ノウ又公。又「さきう方狂で。

冬「がうせへだらく寒ざ。秋「そんなう斯せう。こゝろう四日もてのこと
と。ま。どうせ早稲ざらどうでもいゝふ。もろう仕舞さ
るゆ。其場ふるとさもるうらの経。パテそこぶおしくていらふ。コウ
さうやておんな。まづまの赤の口上ハおゝよろ〳〵く云て今
きくあさる新ざうこゝろ冒のお惣ざ。今月が十月。十二十二
十三。アイ。十四日の晩いよ〳〵ぶつほけまをト。よろ〳〵くやて
おくれ。又「ゆうさん。エ。エ。たゝの右助さんこれふへ。へ。こんく
皆さね。ト出て右「こんく皆さね明明明後晩ちやア。てん

てこ舞ざ。夏「サア〳〵急ぎざく。生有「車輪ふて。ゆうかせばきろい
るハ極。秋「まづ本陳紙ちやせう。今年の恵方ハどちらざま。
ト どうと狂言方めりてかうまんふ本よりこゝる。大鼓の
こゝあ〳〵だまつこん。そ。ゆわさ。ろ〳〵ぶ。
春「サア〳〵立せう。シヤントまを秋「どうでこぜへさを。是ちやア大変
うち
変へうけてもまんざ〳〵ちやア極ま。春「同つけものぶ。冬「ま。て
らく天下の才物ざ寄絶〳〵。冬「サア〳〵贅沢。店「ト云こ雪ぶ
書板を濃さ極へちやア。秋「そこハ五歩も遠ぶ何
もいふあさ。ト書板を乱平〳〵。落〳〵に役を割つけて冬「全体大益利

ぢぜ。春「下駄をーて内でころころ稽古ふかるのぢ。
春「まぐれ曙合てけつこまる事どハたんでめそぢぜ。秋「そこぶあく
雑碁達者ぢ。ト出のく店「待ふ。おれハ二役ろの。エト見
ひろえてよこまる。
ぶ出長の書抜ト。これ。エヤ〳〵ちぢろ大屋丸役ろ。
春「それハ姿見ぢ右さ役ぢよ。役ろ役ぢ。玄「書墨紙傳ひ場で。
大谷徳次
蒲焼の書出ーれよりもの事ハ落ぐるぜ。春「役役ぢ。「大屋の
役役ハ屋代ぢ。ちのろも高ぢ右ぢ居る。大屋ぢ大屋の役を
きて。役者ぢ役者をきるのぢ。丁ど稽名ぢ家主右ぢ場。

ぢろ。ぢろ右ぢ場ちの。ちびちぢ。「大屋さ高ぢ大屋さ高ぢ
役役ろ。皇ハよく勤るぢぢ。右「ヤあらア見ハいぢ。丑
でハ退役ぢる言ろ。「ア縁厚ぢ悪の。右「そんちら右ぢ。エト。
ぢろ二枚ある出掛ハ何ぢ。ア書物の内ぢの中部ぢ。ちと
傳で服さ移ハぢやア右ぢ移ぐ。エ。ちんぢ。何ぐ。「見利見
利家の。出屋出屋どこゥろゥ。ぢぢちの。「コウ〳〵青麦
ぢ鯖をよこ。ちぢ。ちめハ本をよのすせると。吃又ハ笑ハれ。
右「ハろ。堪忍ー移ぐ。コウ粗言方さん。ぢろ移ろ見利家

の出来悪しとハどうしよう家ぢゃ。秋「コレ。どうもあう後く。呂利兵衛の
中毒ぢやこふ。店「ヲヽトあやまつた。こりゃ大変ぢ。呂利家の出
来所。山社へ出ざんろう丸。春「コレサ。中系統ぢやこふ。清む仮
名まで濁て演ぜ。店「よーざ〳〵。中系統のう。折とりイ
とヲ。さらイこふひイ。こりゃ〳〵奴とウ。秋「宮目じゃく。店「今さら
よむ所ぢやこふ。秋「あんの負惜ふ。店「こりやどこまでエ。エ。あつ
て。エ。こりゃびイ。こりゃびエ迄イ。ア。くこりゃ止う。見ぐだるのふ。傍の口ゲ
うるせエ。ト声色ふ。呂利家の出来所。山社へ出系統の扮を

幸ひ。宮司とゆつて丑びエ迄。まんまとまふ入る山一系。秋「それ
じやア。調ふぢ低ハ。店「ハテ丑びエ迄ざやうこりゃ大きふ声そして他ふ
こわれるとふ。ツレ家ぶ後のあるぞ。「悪ハ脳ぢ。玄関ふ来ーて
芽ふぶいく。「鍛冶屋じやアあるめーー。ト声色。「ホヽトこりゃ。
「あ花道の先ぢの。秋「こりゃやアこりゃと。丑びがこりゃ一役あるぞ。
進ぜう。山達中ハ役ぶ統ー。こく。畳所の七助ふさせよう。「まの
ツアよりゃう。「サテ〳〵稽古にかゝらうぜ。秋「奥へいりませ。ちゃんと
かゝぶけてある。「外ふつゞらして勤まる丑ア。「まづ入らせられま

せう。「ドン〳〵。」トさるぎつね〈かくしを動たろう猫ろうんでゆうしが。ホントとさそへいらんともるに。茅のもとをびゆへひのを茅て
隆つ丈ちぐりつけて来てるゆえ。だろくろうと。
はたらそてあるうまぞ。動たろうふりうろうて。「チョウ。ゆへいゆつぐ。淮ぐいく
ばらば〳〵ろう。酒小のど。廣助有男〳〵と。「おさるへめでくやめでくや〳〵。」トロ三長
きてそ〳〵。「ぜさ大魚あぐ。」ちの丈へゆぜうかうかうこ紙いくろうこ。ト
ひのを右
とう角。「ゆるさせられへ〳〵。」右「やるまつぞ〳〵。」右「ゆるさせられ
まへ〳〵。「やるまへぞ〳〵。」北の村長の分ぶり。「秋程一人のとう来て。うたぬきをとうこ。」何や。
七助や。きこえぞ七助。コレ七助へ居様〳〵。奥の方ゆて七助へんど。「ハアイ。」秋「ちうと
来や。七「ハアイ。」ちぐりこて秋「コレ。何をてゐる。七「ハイ。只今猫を

食て居やとちくとお待きう今。秋「鼠へくらよめへどもも
ちゆうぞ。ぜんぜんと頂てくろ。お食と食つてくろうふとうぐ。其かうか
須ぱうこひがあるあうそて主のらひ付るる紙貴てどうさりんぐ。
味ぐう早く来主。それ私用というのぐ。七「ハアイ。トのさりく。パイ
あんぞ出用でおぐうやとう。秋「ゆ月ぢやア猫へ早くゆんぐら来。
七「そうやアくや。出立人さ多のるぐうぐんか主利計いれても。ちう
とうぐうや猫。ダガ主さんぐさ計阪紙食つて。ちう〳〵央出猫
と食〳〵猫ぐさ。ハア食さくも猫ぐ。ゆーらの天食ぐそでれくうぐ。

男が貧ぼうで後がへんで男は便りるんでエあるめさ。秋「コレさう
なる遠ふ。ハテ鄙人めどうもこまるぞ。七「あんぞとの中と鄙人と蓋さう
ちやるが。ハテ七助。給金の増イ呉さうもあるわど思やア思程。秋「コレく
そんなもつまでもいつらぬてあくふお侍がある。七「お侍とありや掾
とも侍合ぢ。おのくさうが七助と名のハつて。お侍衆かけ
さうもあ。是エまあ。こうぢけ程くとんぢ。何でもいろハあ中。七助
迷くあんぞを解るハ。たぐうるぐう言ふ侍ぢ。迷くあ中に。業
切庵丁ぢ。その先ア言ふ。後家のかけ狩外ぢが大ぢ。畑の

中で白粉のうるあるぢが。狩程とかんるぐ那ぢ。秋「コレく中ぢ。七「ハテまぢ一すーと手傳ふ。仕位ぢんぢ。秋「コレ
外のるぢや程く。万福ふ程ぢあるぢてめく中も出る狩ぢ。黒
どんで井戸ぢうぢと出るぢうぢ。七「ハイ程ぢエ。秋「ラサ。七「ぢう程く。
秋「芝居ぢハなり。ヒ「芝居ぢう中程。秋「ぢう程でも一すーと程ぢ。
家物を盗んで井戸ぢうぢと出る。大成成程ぢでけ程くとめく
ぢ頂く。丞おれが出て曲者侍。「何ぢうんと。家でおー出るぢある。
七「イエくもしく。早ぢうのハあ中ぢか。だめなるぢく。だめなるぢエ。

なあんさるとそんな根性はよのやあんめとおもつてゞあんを果さこんぢ。
是程に言つてゞあるて。何ぢ不足で盜人根性さげさつしやる。
夫ぢやらしぶ奢らしやるといふのは家もこんぢ。色と酒と
奢ぶ持ものは。始終ろくで稼へろ。イヤ又。阪イ樊まもでいとのふ
性又はちこぶ盜人をしでいとのふおそろしいるは強合まし稼へ。
コレ。ろーイ親父ぶ考のは癖ぢ。人習言ふものは盜根性せへさげ
みやア一生安樂ぢと。ろくこ稼一文も手代つけても益の手ぶ飛ぶ
ぶ。其上ぶ何ぢ。あしぶ友達の方福者の宝物をろーに盜めと。

ぢ。ちそろいるろぶ。人面獸心ぢ。秋「コレ」真に盜む
のぢやア稼へ。七「狂言でも虚でも。他の物よ手代つけて沙汰で云沙ぶ
あるのんで投へさ。秋「ハテ」ろくこ稼へ。七「コレ。ろーよろハあへ。ろぶ。ろんぢろハア考まと
さ。七「角紙云のろけ紙つぶさふものぶる。七「ハア。ろぶ。ろんぢろハア考まと
べい。夫ぢら其宝物と虚で狂言是偽るさいろう。秋「ハテ盜むのぢ。
七「イヤ虚でも盜むと云まし稼へ。七助ぶ虚に宝物盜んぢとられ
ちやア。先狂言ぶ對して。百姓ろぶ。秋「そんぢら奪ろさろふぶ。
七「ア。それぢらまぢとろつぺい。ろーに其井戸ぶ狂言ぢ。秋「ろぢ。七「ろぢ。

云て。おめぐさん人の想像が強く出用心でも井戸へ這入て見
さうなものだが上るハテ。それハ寒の内黒どそこの者て井戸へ
這入つさうどうぢんべい。どちらを考へさう温ざんべいとそふハ
本の分懐子で。おめぐさん人半分考へさうん強。秋「コレ井戸ハ売
井戸と云て。井戸ぢうぢうこまぢ人あるぞ。七「それぢ水が溜くて
三側もあんべい。秋「ナニ井戸の形と拵て浚うう黒幕でちよい
と出るのぢ。七「それで他さるが合点きべつる。秋「第初さ。七「人を馬
鹿ふさるのぢ。秋「ソコデ。三月りがあつて。ドドてあくを押へてあん

だぐる。七「エ。トびつイヤどうでも止まべい。ハ七助貧乏ハ〜ても傳
らぬるあうあてハ考まり極。秋「コサク菖蒲で考ぐろ〜あうにはなせて。
浚くはろくと縄をまあくの手で拵て居るのよ。ト仕ぐコウ山通りぢ。
七「ハテ子。ヨ〜イだまるとこで立極ぐろ。ちくをぶんぬつて其時考ぐろぐろ
べい。秋「馬鹿と云ちか。ソコデ。次の幕人其ありで出る。おれが二役ぢ
出てある。陰〜掘ふあつて。おまぐたのんざるがだれさうにある。
てあくの貢をポンとちくそそそれまれ支限ぐ次ハ役あり〜。七「おきれてざろ
それ。トゆびをさしてさうぐが。それ。おれが考ハれくぢやは。てんきり

終ハそんかるぐそんべのとかのうこ。中ーがたのんざるぐがだれさう
ゆかるとこ。私イ貢とポン。丈限ご。役ゥ〜ゥ。そりやアイア云ぜーと
云れさるぐご。貢ゲ落ア。やアア令ガ行くくく丈限さ。役ゥ〜ゥ策
よ。ゆ〜イ。云行くでも知ってるさ。泥山白く貢とポン。泥糸でと
さうハいさ年〜行。行るごら行て云てんさろせ。七助ゆも荒祢角ゲ
おぎくゥ。早云ろう裁人ゆるぐけ。なゆご。いつれるゆ年ゆ遠つごゲ。
主人のるぐごら。ゲゲりゆもかん生べゲ。盗人の芸似ーて。貢。
ヲ、おそびや云い牛ーてもちろう行。秋「コレサ何とのあ。七「ウンヤ

のう。ゆ〜ゲ其猫拾声も早聴さく行。ゆ〜イ貢ハ言りんべ。
ヲ〜イ貢ハ安ろうぺのさ。二ゆ二分の給金で令まで六愛ほ行。
紙加減ゆ。ちろでろくれろさ。給金のつて宿いりぐべ。ち居イ
くろ為ゆるゆくさ。秋「コレ七助。さてくコろ〜行。ゆ〜ゲ云てさろ
せるのに。どしてさのご。七「早云ろ〜ゆんゆ。盗人でもゆ行ゆ。
ゲ貢でちろさ。秋「コレ。まゆろくさくゲ。ト七助に日ひをそ色セ「丈ごら
早コろる年〜さ。ろ丈外ゆ中ーさのハ中ろ男ゆさりや。モ。ちろり〜
ろ法ゲ行ゲ。ゲゲ。コ〜イ中ゆの通り祐筆ごろ〜漢中行。時記で

覚えかねへ。其にモノ小あつかれなまみでござる。ゆるく揚ぞやア猿へ。○忘れ
さう後義のくりふ。○秋「仁義ぢやア猿へ。せりぬとうそのんざ○七「せり
ぬ。モノ忘さうせりふの代りに千万さまざまかありやせう。○秋「ナニとん
ござる。○七「ヨるかんべこつ子。まアぞ肯け。○そのわさ。御座の儀信夫
款のちよんがれまんざア。○村中でさうれつづく着がござり申
猿。是も推茸のくりやア。○秋「アヽこれさ。せりふでとらふさ。
せりぬの外に何もいふとないかへ猿へ。○七「みんな笑と数ござろけ推
茸ぢやアあるめへ。へゝ。奥の方にて連中の声よぶ「十郎どん〳〵。ちよつと

手を借さうせへ。○七「手まはり使はれるのんぢやア猿へ。○割料
いふお友だちだア。厳ござつて使つても能んべへ。子首やホンジの。
手まはり使ひのと端消してるなど。○トいふ折から口くに「大事だ〳〵七郎
どん。○早く〳〵。秋糧さへ〳〵。○トよぶこゑに二人あわてかけゆけバ。奥の一トゐのけのときわろう。からき勘弁首
のあをくゝりきそ大きうござろう。秋「どうしたヱ。○吉「アイ〳〵〳〵。○七「痛へ。アイ〳〵〳〵。吉「イテヽ。
又ぞ中返りでもござるか。猿の真似をする鳥勘左ろ。おん返りは
あらくそ返り。○しげ返り。いろ〳〵してござる。○きざんを返り損ねて。げ
通り首纔なぎき。○七「おやでも首のそのおかしござる。○秋「そりやア大変だ。

「アイタヽヽ。玄「私を一ツくんな。秋「ソレ七助。七「ハイ／＼。トくんで台「どうぞ仏
ありハ。亀「私のありハあんともないが。足痛ハコウお紙なさらへ。玄「鶏の
ま縫する島ハそのむかし此時よりぞそうじまするさ。亀「コレ晴縫人
洒落ながら此首の蒙疵ハ妙な。春「蛇魔でもとるめへ「全体
その形で。ぎぎ紙返らぬものるのさ。玄「ぎぎで扁鵲をそのまゝ。
店「マア此首紙あつちの方へ。亀「アイタヽヽ手を付て入痛へ。
「浄瑠璃の紙形んで置ば傾きが治らう。玄「それやア公坂乃
縫ぜ。張「まあべつ事ぶハ縫人の。玄「尾錦なぞも履へ蔭を挿て。

口「喰てうどうぐらう。そこで。おめへがあの方を手で治を是則
膳細工の医案也。店「一傾縫人方へ尻尾を立さう「鼠ぢやアある
めへ。玄「サア／＼。大原さゝく縫い時智恵紙揉るのさ。店「亀角明肉
出てアるがこの。七助「ハテおめへさんがたの家で首をポンと其上で真直に
つぎ治るがよろしいべの首紙ポンの序にえりの方から紙捻押通して。
上から引張てポン／＼と喰て首イつげべ腹の中の脂もとれて能さ。
秋「何をいふだまつ居ろ。アノ何ふしろ。動気乃肉へ連行くるさ。
「其上の浄瑠璃さ。亀「コレ／＼。それハ面白いがぎぎ紙返抜つて首の

骨を折ことだ。お袋や女房にいはれる義理か。近所がうるさいで
ざるても中返り紙鼓をとそ加役に折ましてもいられまへえ。
どうか仕様がアイタ〳〵。ヲヽ痛へ。ヲヽ痛へ。〳〵。庄「痛へは構ぞ良へ
始るさ。喜「そりやア委細かまはぬの事だ。アイタ〳〵てされん位の
連中ござ。コレ〳〵。おれが其ろる男衆が出さ二体酒とのものは筋
骨を和げる物ござら。折ふし菓子どうぞ細蓋と三合おつけく
痼をして貴へ儕の煮売屋でもいゝから。湯豆腐をとらせて
くんなせへ。秋「それは何より安いことだ。トいふ所へ十助もぐれさゝへ来り。お八おくれ左ゑろ

のませそのもい。喜「アヽまごよく子が極へ。アイタ〳〵。秋「それではおらござ極へ
なら〳〵。皆つくを。十助「ハイ〳〵。トうけゆんとまる所へ宅まで声かけ
から。駕籠で送らう。七助。早く延て来や。
喜「ヤレまて七助をやまるまいぞ。喜「悪くきのを出れは。宅なら立上りて首をはぶして ふりまはし。
かへウおどろくは甚不審物語らんや。能く聴け。某只今折とは
しは皆偽り。誠は二日酔の後なりとかれに迎酒の青らん〳〵のむぎと
虚病の我が計略。ふうえたまへさ汝等より青の切の茶碗酒。
一盃まゐつて氣をよく。パテ心地よきありさまおちやよか。ギツクリと
玄「おきやアがれ。とんだ目にあつた。喜「アヽ〳〵はゝゝ。秋「サアくこれから

源ジ。白銀所の東極へさうろうてみらう。「てんとあのーろー。
玄「寄姫」右「所へとまるこぜ。トあをりて来切るまれ「刃をひらき「ひのトリ」そこハ
さうぢやテ極へトンく。トンと三の退てソレ。家で脇を切てぐりいサ。ト
右「よーく。玄「ソレ来ご用く。ドッコイ。一返まつんぶ。ソレまづむトンと踊
でギツクリさ。ア。そこらあふ来ご。ソリヤ天地ーて。ア。百ぶ
悪い。そーてあのく白服ハ小間をなどうとなどうちんと
家紙つけ極。右「ソリヤ。トンくトンと三の。あで脇を切てぐらい。
ソレ白服ハどうぐ。玄「手紙先極へべろうぐ。右「あきやアがれ。

私「すくちと休息ーー。玄義はまりあんぞ。
話下不在ス。

いよく当月とあり月れば。万屋福ちうぶ家内の混雑。近所合壁
一家親類安人の男女老少をきーふぐ。今晩ハありぐう。吳ちお人
さぞおそうとと。あいさうとれそを坐敷へ通る其中にまづ者の
甚六福ちうぶ赤ふ吹ーて。べんくとのもぐ邑。ハ人ありうくるの
あぐび来る名人「あてやはうひ安ちも紙金。渡けみんいも紙金でぐう
ぬを。私どもハ。ありーこけ始末ーて居る。ぐ居ちいてー。
まづ今日までハどうもうたぐて六通りまを。ちーーるぐら。

たゞで通るといふことはなるまで。人間五分働もゞぞうませど。人
さ角の中にたゝぞ〳〵とるも出来もいくさど。是でもハヤ
ぢまゝぬのゝ人なまぢぶ。是ガヤハリ天道さまのお授けこれ
ゞけの拵えでおざりませ。欲出頂ハものでゞざりませ。ヂ分
さ角ゞゝあるゝ極ぶ大まへふ善〳〵出る。是でも出ず分
お為ふ出ず出ハ終ませぬ。私ども一枚ゞとおぼしてひらく
いゝ〳〵ゞゝも。私ゞけの不足ガナ。まゝり終ませぬさゝゝと参ませ
ゞバ。イヤ高ゝ不景気の何のとヤまゝ〳〵ても。如何いさゝ出ハ

桐ゝ〳〵ゞ紙ゝ。扨又金ゞつゝ〳〵ゞ出ハ。是ハ〳〵ゞ出ゝ。
何ガよのゝゝ〳〵ハゝ世の中ゝるゝとヤスめバ。イヤ紙ゝ入我〳〵入出ず
五紙入和五紙でおざりませ。イヤハヤ有ガ〳〵ゝるゝ出ハ私の拵る者
ともヤ〳〵とおゝ〳〵ゝてゝ〳〵ゝるゝとヤ出ハ多〳〵容
易ハ知いきでハおざりませぬ。是とヤまも大根ガ正直のおゞげで
でざりませ。世の中ハ名角ゝゝでゝ出ゝバ浚られませぬ。今ゝに
出損ゝゝけてハ今日極ゝまゝ甘ぬ。子方拵でハおざりませぬ。貸
てゝるハ結ゝとヤて。へら平等ハ代物ゞでもおゞ迷まゝと世ゝ

体の見場だりで是程借金が出来あるとは思ひます。拂ひが
済れば仲間がきつちり呑込まるさまとれば一ぺんえだりようして
内儀ハちんくるくん。同角の家法が悪くありまもれば商売も
為らぎまもて〳〵。あづくう分法りとありまも。是だりくあるべ
丹ハ居ます。イヱ又そんなみとれば想像まもと拂がろくに拂ら
ぬまもせぬ。それハよいが。掛が集りまもせぬ。どう考まて〳〵
掛商ハ損でござりまも。五歩口銭でも現金賣が独でござ
りまもて。賣る時ハ利のあんまりでござりまもが。其金を又

仕込又賣まもろう。家でいきをいくまをふ。扨金銀の融通もよろ
〳〵ござりまも。世帯とヤとのハあざあろそうなことでござり
ますあてす。一ヶ月行程とつのりましても臨時が多いで。是で遣
却いたしまも。不時の物入がない物ゆへ金程法ようござりまも。
其事ハ先ずさんとうもござりまも〳〵。一度様で出産じまし〳〵。
五年や十年で其人おハよりまもせぬ。デモありがくこうゆ出産
もござりまもせぬ。少益人家での儲もあり〳〵。静かなことで。お年きなふ
安心仕りまも。此又智和拂合の結さ。お繕いて豊年でござり

まもろ〳〵。はゝ〳〵あらぐるまでござりまもゝ。はゝ天地の御恩と申
ものハ。宮和ふ余りて多くの酬〳〵もまをせぬ。ホンニ。私ハはゝ様
分庫そびまして。はゝをく後家〳〵。ふゝとゝひ者まもろ〳〵
一句ヤまも〳〵ぶ。皆主人ハいそぶ〳〵きゆゑ。逆須ぐるり。ブウ。ハア。ハテ子。たそ
さそ。多ゝ〳〵ごさるさ。大きふそのゆゑ。ごさるさ。ごさるて。手様分せそ
おろう。万福
しぶ。「ハテ。発句ヤ。それハ珍〳〵の子。」「私さ。つのぞヤ。」
多もござりませぬぶ。発句ハ何ら三十一文字あれバよゝと承り
まも〳〵。イヤ。のう。和〳〵いる多でござりまも。メシ。宮〳〵出て
ゆき。ト後の間で繁〳〵ゑるどんぶりの
ゑをまも〳〵。ト。ゑをか。イヤ〳〵。ゑハ徒久ぶ。

こゝハ。ゑをう。紙へ〳〵ゑ〳〵て用筆貿〳〵て。ゑけと云ゑた。
チョウ。発角投ぎぶ。途中で。ゑ〳〵て。ハゝて。ゆゑ。ゑ。
ゑ〳〵。モシ。ゑでござりまも。ゑで。発句とゆゝたゑりまもろ。
ト出る。万福
「ハテ。ゑんぶる。トアるふ。寺法流と。和歌流の。
ほの〳〵と天地の四恩父母や水は恵徳
おゝ〳〵ゑ〳〵ぶ〳〵
貸家屋まハ
万福
「ハテ。ゑ。ゑハ本寄ぶ。」「ハテ。ゑ。ゑでござりまもろ。ゑの。ゑ
も多いるでござりまもぶ。発句ハ。」「発句とハ

俳諧のるで。俳諧ハ行こうとて。和尚の別家の拙の物ぢ。
あめの芸へ。和尚ぢ。「金さをうあら殺生の本座でござ
ままろ。扨も〳〵ぢぢ本座ふあり迚さのへ。ありが
とうござりまと。まで和尚ら〳〵うざりまろる。「和尚
ら〳〵うざんまぢ。「ハ〳〵。イエ唯ナ。あゆさ。みの恩ぢろハ報ハ
きぬと俗云ふもやまちとふつて。浪くその上を考ほさなが
ままでござりまと。「ハ山ほのぐとつふるハ人麓のあふふみそ
制の河ぐそる。ゆゆあふほのぐとつふるハ。奇人まとまぬテる。

「ハエ。さをうあうばほのぐとつふるハ人麓さるの株とゃ上ぢ物
るで。「まづ俗ふいふぐそんふ物さ。「それハ又株金を卒ー上貴
哭ふるぬとで。「イエサ。さうハ往れぐこれハ同流ぢ。是哭浪く
法のあるるで法甘ば長へ。「ハテさて。さをうあ〳〵ー〳〵まぢう。
和ハさ。甚ほのぐとたいふたぢうらうと本でどうう期。
ちのぐまるをうでござりまろう。我ちぐさをう法ほ上ぢり
ちらぐきゆぐば浪ぢ法ー。他さるの株式を卒ハ不実ぢ
ぢりまと。是ハうまぢにまー〳〵まと。秋の田のト。イヤ〳〵。

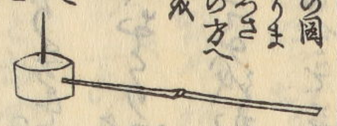
ゴロ〜。エ奥ゴロ〜。イエあんぞ百人一首の内でゴン組ひませう。只あのさ。ほのぐ〜ぢろぐろ〜作り行でもちろぐろい
まゝ。美盤あぐ。毛掛とヤスもの二刻ミて又まゝと正味
八丈地と父母でぢろもまゝ。「十二サそれで赤ぐぶて。「終う
ぐぢろまゝろふ。故障でも方」「ハテさそのやうなるでは
あい。「ハイ〜。それはありぐぐぶ。まづ一様ふわりつきまゝ〜。トいふ
ぢろち長ちろ「長形ふ。出特造形が一寸。「ヨイく。方福ろと
ヤレうれ〜やと「サア基六さん奥く往るせ。トまゝ「ハイく。呉今
いふまで。

糸ぐまゝ。トキニ独ち清さん。とぶ八山混雑。他「ハイ。トいふぢろ〜ぐ
ゆゑあのぢろ〜。ぢろのぐ〜ぢきまゝ。ぐ合の「ドレ」ち奥でまゝ
長中ふれ〜と考ける。いづれもそ〜ゆゑ。ゆ〜てれぢろにまり。
づくひナさろ。トまゝ世ろ世〜〜。
ゆゑ奥〜〜〈不顕〉奥の一ト間を字絵屋とゝて。中
つぎ合せてる引幕。絵屋八ぢ紙引あげて一面ふとぢり屋紙ちるゆゑ。
正ぢの祭屋のど〜。見物ゆまゝ六ぢ表小並ちて。ちのく〜ぐくとか〜
ま〜く。ぢきち九作ゆゑ。ぢろ〜ぐちぢ間割のかぢち。三方央ちるとゴ合せる
様姿ちけて〜。毛鑑の文猫ぢ屋の出ちりたりゆきぢ。岩ちと義ちぐもり。〇代
見物の婦人城ぢちんと。ぢえ〜ちうの私樓。わく〜ちく青貸紙ぬり。赤白縞ぢ
ぐろと濃くぬりつけ。唐紅ぬりつけ。わりくいゆ〜ぢろぷり。多編かつ〜ちぬり。ぢゆ〜ん
ぢりもぬりつのぢ白くちどれ〜。屋敷。長屋。濃青の中形山紋。芝八ぢ人
まゝ切ちどび。右のぢ八ふとぢろふ入れて。たりのまに。四方本紀伊の図や仕入の。
きぢ紙袖ぐ〜ぢ不物ち。引幕の内ちり出て。長サ三ちりびぐの花道紙ぢりと
ぢろとあるきぢ。ちぐ合ぐきぢの人あれば。羽もちぢふぢ〜紙

ちゃけて。かの女のめくらくちゃくき。その人とあのさるーちゃくく。四角の目とんぐり
て。飛ぶ。ちゃんぐー。ゴれ一人上もぶり。いろ男ゆーて。ぬっぺら役者ぐろ。
四五の師そけのけと　十二三の　秋「どうぐもの坊ようく来さのかく
いふうゆられ。ゴり。○中略そそて
さんハ来給へ。「イ〻ヱ。ちゃんの。ちゃんの。ちゃんさん。ゆふちゃくと見づくひ。
秋「そりやようく。「俵人さんちゃくハ伊の殿を行ぐ。トいふれて。けをぢ
いろ男ぐきゑ。△赤面ーてあるろ。秋「何でも。「マア何ぐるきて。ちゃ
ようとり。ちゃんちゃく。
せよ。秋「中上ちゃるとて。さぐれくの豆種さ。「うそぐちゃうそん
白粉紙をとろくと豆種ぐ。ナニあるのんろ。秋「ちんとうよ。トいふ人
さー出一紙二三年拾て出ハ。「ヨイ親方ちゃう人物ぐ拾つとちゃく
ちゃうぐくちゃうくの沢山ちゃる。

尾州侯　宮門之印

▲さー出一の図
ちゃくちゃる移りま
ちゃんとあるさ
二寸ゆ切接の方へ
外のさき成
ちゃぐーーて
つちゃちゃ
ちゃんちゃくハ
ぐちゃを
ちゃそ
ちゃくちゃくと
ちゃる。



序幕沈明ゆと。サアく親方。はちゃくさ。トいふ
ちゃどうれくちゃ。ちゃくのちゃちゃさんをちゃうちゃー。ちゃうちゃれ
ちゃて。見面人威勢ちゃちゃうと。ちゃふちゃうく。ちゃ紙ちゃる酒。
秋「ヨイ今徒くよ。マアあの者とゑ忘ちゃ。コウく
かんてちゃハ沢ちゃ。「見ちゃ徒ちゃ。親方そちゃくちゃ。
親方ぐちゃくちゃハ如何ちゃちゃ男ゆちゃ紙ちゃ
ちゃてあちゃんである。「コウく手松小僧。一寸
ちゃちゃ。「ハイく。秋「ちゃ代ちゃふちゃうちゃて。ヨくく。ちゃちゃ
ちゃく。モシ德ちゃ勇さん。「ハイく。これく秘糧ちゃる。今時ハあり
ぐちゃうぐちゃちゃ。ちゃぐちゃくちゃあいちゃちゃもいちゃちゃん。秋「何ち

おつ。ゑぶくろ剛切てとりゆきたる。アノモン樂屋くかんてら紙
ちんとかつて居るせくて。「ハイ」くかんてらとよりまもうな。髪の
ハ形へ性をものでゝ大きゝとまもうる。「秋」考のさく。「ハイ」く十文字
信の赤縮緬ハ紋まもうる。「秋」「エ」。トふぐさうかんてらト
おつ。ゆうまもう。「秋」「エ」。るるゝと。これ芝居ハるゝ。蠟燭のるゝ。
「ハイ」くおとり迎ぶろ紙でゝ。「秋」「十」芝居ぢやゝ
蠟燭のる紙かんてらとゝ。モシく。幕開おゝ千目ゞけと
つぎ幕。幕の内ハ考の蠟燭さ。迎りのる紙芝居ゝく

しゑくぢやゝおつ〜く迎。「ハイ」黒くいつ〜まもう。あのさ。出演時
ゑ紙に朱蠟や絵蠟燭ハ。「秋」まつ〜ぶ。黒い蠟燭ハ何ぶぶ。
まもうな。「秋」「ハイ」ぢやゝぶ。黒くくとハ蠟燭のつぎ着れまで黒人
ゆ。「エ」くさゝ。「エ」くさゝ。ゝ。〇。「秋」「ハイ」ぶ。
あげまくゝのぞきて。「アノ」拙郎のぞる紙ゝ。紙理ゝ。
さいゝゝ好ぶ。幕傳着ぶ。「安」「幕傳」を姫さ好ぶ。「民」「あの」
ゝきゝ。「呉」「呉」ゝ紙ハ種とゝきて。「条」「あんかぶ」をして
持参ひやゝ居る。あれで女紙隠せる幕ぶゝ。

三年でも大係ゐねさうな者ぢゃ。「おせのコトえねへのいきてこ
ぐ程の。」「どんな宝のいく女でも。あのつへおぞけとふるぞらう。
「近くいへば化物ぢ。」「コウ〳〵ちらつかせをしてもらてか。あのつぐ
狂云の時ちらつかさと喰せようそしてもつよさるこちらせて呉
べい。」「あつつア如何まく。」「アレく云る奮や嵩ぐ先ぢ。ライく嵩云
く。」「ヲイ〳〵ところ。」「大ぶ遅ろこの。」「町湯ろう遅く
ゆつてチ。湯へいつさそろうよ。」「サア楽屋へ歩ぬへ。」「ライ合点
ぢへおつぷろうへめ。ト秋狸が方紙ヲて持ち去れば。母国と狂

うるぜ。あのつぐ法面りやア。れんのろくさぐ。異国屋の格と絵師
屋の助ハ様紙書て仕舞屋へ。あの面ア呉ぐるぜと。
石屋屋へ。ちに出べい。大きな面中へ塗ちぐつさらの九尺位方
位ろよ塗ちぐ活ぜぐ。「江戸ッ子ゆもあんか支離者ぐあらア。ト
いかがやそ。「秋狸さん。」「ヲイ親方。」「ライ今往よ。ト右ろ色
さうに女の方紙ヲ取り。どうもうるさてゆろ極へ。れぐ居極へとあの通りぐ。
コウお助さん。豆邪魔ア仕ぬ往くぜ。」「助ア。土ちさんと
幅松さんがいへべ来ぬとて。ちまへの怪ぐろろけ。」「又ろけ

さをてろ。助 たれ切てさ。久〳〵いお様ご至。秋 べらや 紅屋の番頭で
佐さをてられちゃア出そうゆるの。助 よ已くとうひて〳〵至。秋 又後に。
トいふ〳〵七助いき気切て。七助 やう〳〵見形さる。秋 七助。あんご。七 イヱ。サ
急ふ戸口をさるぐあるうち。ちろこりあめくさるにお後の仕
べいとろつて。鼻イ切らしてめりやーと。秋 サア〳〵楽屋へ来や。
七 あふ。家でも能るのさ。家が明日でいご後ふ男んで出る
時の推薦に。戸忘をてろア。推薦でおー〳〵。手新でおー。菜
小焼豆腐ごろけごろ。何でも稽進ごろけ。秋 何とふのご。

七 何のさも。秋 べらや 佐さの戒名さ。秋 べらめ。せろ〳〵。七 ヲ 其せろ
きさ。芹と教ごろう。菜と焼豆腐もまろさろ他くで五枚。
そこでモノ。井戸〳〵這上りてのせろ。ほさ。まんまと首尾ようと
ふちゃア。出口のきさろおるで長家後へ。そこでエーイ。ちくと
助平の〳〵こわが。お阪と首尾ようと。ろ田舎者ごと笑れ
べい。家が不形おくさるの教さろ。ほ河ご。腰と首尾ようく奪
ふろ。ふ所と。ふろ。どうごんごつ。秋 べらぼうなくせ。
少て大きふ。秋 べらぼう。家でいろぼと楽屋へ来へ。あれ。まんまと首

尾ようくとふうまくと首尾ようくといふるぞ。「うまくも覚
のあるぞ。秋「ヨウまくい。樂屋へ出まへよ。トさきへ入てぐやくする。七助
大ぜいの子分七助紋七「ヨウ。そんなふ筋へ入物ぞ。何ぞ知らんて
ようてゆく。
筋ふぐらこ今ゆうら早筋ふぐらこ家で針イさーて垂ぐべい。
ようーイ七助とふ者で今月までけが丹を罪イはくりさ
るのあぬぐ。よんどころ極へ手人のおくふぐ家ふうこ出おさ。
盗ふさころ廿人盗人ハ居ぐ悪ふうこ。ようーイ曲者で出る。
御腦と首尾ようく宮務と。コレ家ぐ針のさーてぐ。ようーイ

盗ハ極へ奉ひと知て出るぐ甚井ともみーらへみぐあんべい
とふぐふぐいまぐ売さ兵井形汁拵て垂て其後ふうこ丹
と知るぐ。「まくの七助く。十「ようイ。兵今やくり丹と丈ふうモノ次の
幕で。ようーイ兵形どのめぐ盗人根性ぐどれさふに出るト。ようーイ
首ーポンぐ何と魂消べいぐサ家ぐそ。「貴ハ宮務多く。七「ヨウく
大ようくひすり。
静ふう廿人出ーくく極へる紋紋ふうさんぐ。秋「ヨウ七助。「ようイ。
兵人ふうめふう丹と。そこでようーイ首ーポンでも魂消さやーやんか。
そこぐモノ狂ぐさふう案ーる極。「ヨウ七助どんまさふるの

且那が出来る。七「ハテ人う絵解イしてきろせるわぢ。ヌ人ゑ「コレ
七助どん。七「ハテさて今ちと五。ニス「ヲヲ楽屋へ一すいろうせへ。七「イヤサ
れろ、。ニス「ハテまあ〳〵。ト あく。りふしぶろて〈市とくりの場〉〇ちやう町の楽屋
見家ぶ
ゆく声々の連中ちろ〳〵のろ〳〵ぶ大ぶ。ゆくハ義浄さん
チヨボ語りの義浄。三味せんひき鳴る沢やく八とれハ毛夜ゆ。
大身体ぢやナ。義「ちよさまろ。ゆく「さつか。義「ろ〳〵チト待ろ待ろか
叶家
ろんぢやろへ。ゆく「そんか物ろへ。ぜやろんろよりぶ湯ぢやハ〳〵。
義「ぢゆ〳〵よろまぢめるそんぢやる。ゆく「そりや待ぶ。ぶんぞの世ろんた。
ろろぷ〳〵ぶろろひ。義「ざぶ紙の世へ。落ろ家を落ろとりふゆく
ろろ紙時〳〵てざぶとろ「ヨ

五国

ろやろのぢうのせろ。義「隣家のぢんろうハろふ左
平次わぎるぞ。あのホマアさろぶと待ろちやふあ。
へげろれたぶ。ト出ハ〳〵義浄さん座出敷屋。
万福ハ寄り
義「ヲ。ろ脇へおやのまろ。ト「ハイく。トやろハにおまへ別て器
ろう
労で。義「どろぶゆく。トろやて八義「イヤゆく八。見ぶ出あのろ
友ぶろぶふ
ぢや。ゆく「ハテく。見ハ。ぶ出ハ。物沢ゆく八と
ゆまと。ゆく出来ぶ目ぶろけ。ゆくれまして。ト照れ別て私ハ見ぶへ
故ふ皆ろ多の背紙ろけろまろる。其ぶ見でたとろまと。

「ハヽヽ」いえ、お出なさいく。ハヽヽとんだ事をきいたお方だ。「イヤモ
大酒飲でござりますを。「ハヽヽ支でハ今晩陣中百俵の出来
ますを。「別して私ども二人のハ。義経のごりやうにござりますを。
「義経と育人は近年多の内のやうの者ぢや。「其地に。ヲツト
よろこハどうぢやハヽヽ。「そんなら晩ハどうぞお願ごう
でござりますを。「ヤこれハお口合。「ハヽヽ「ヘイ出来。ト出ゆく
○声々運中のがく多人手代徳兵衛「扇。はるさまの中兼まゝ〜ごう晩
お宿りれお運さるごう。達ておゝのゝでござりますを。どうぞ

ひ義経の順まをぬ内わ。お声色を聴聞いて〜ふとおつしやり
ますごう。相ありませうるべひとゝおあれひやますを。エヘヽヽ。
角お中ごゝハ声々でござりますを。私ハ役者衆の物まねハ
知来まをぬ。多人の声々成年来つゝてとりますごう。今に
上達いたゝまをぬ。イヤハヤハヽヽ。「ハイく。只今参りますを。何
おあるさん。お安の内申ごゝ。おつそぐらうこうう
おつるへ安さうやとう。必ずモシエ。おづけ仕ますとうちやア。け
ん。どうもく。壇家とおちやアとん

ぜとそれどころちゃまでめ。左右ちゃくばといわるとぼく
さつふりつきゆと。まぐろくてけんぐよ優合でおあさん。人をつけ
みくしぺん。袋ぶくろぶくろ猫のやうに紙ぎさうぐろりーて
居やさうか。コウ。皆出稽投じ紙へうた。家の番ばさんぐら。
モシ。おあさんそん京ふ毛家ア。ちあとてもぶ。ぶ庭ハおりく。
ぶくきろ指ぐ治ぐと案の手間ふてまうに。あまハ指の拳
やーて猪のよくたろぷろぐと切。夫家ハ我慢ゆとりや
せん。遠ろ付のやぐぶ見やもおあさん礼義がある人ぶと。

ろちくぶ袋ろ限りさ。トらふくぐぐ種之傍あ手紙之朝餐「アリ」先
あん〜。こんや八ぶぶ面づくで。大勢めくりやーて。ホン二ア大きに
ア安。奴三藤安「さくさ。ぐろぐぐ見ふおろりあさんわくで。おか
やくおくのんやあと。家ふわるのハ松ぶ卯とやあと。
園ナくく松と独やさろやア。淫もちりやせん。熟子屋「ろちハ様
おぐぐ民治とやあと。おくのんやあとろちが兄
弟ぶで為彩という番でおぐやと「汉後モシ。おあん初ん
ちゃろておくん祝ん〜。徳「ハイ〜。どあくく猫も独ろ食ハ。ト

一れいして座敷をたちて出る

「サア」松往きやうか。「初舎の物造りを見るやうに
おれを先へ出すとのう。「ヲヲ」往初メウ。「かうヲ見ぐ。「イヤ
もナ。婦しきぐとろうて。「民「義弟ちよめ。「くゝ来やゝ。「コウく。
そんなふ旨往ちやア。「家ぐ売呼ぐヲ。「民「と条坊と往
つゝ。代り合ふぐゝふ。「条「くさう往べへ。「ト出を「コウく「蓋
敷婦ぐゞ。細工物の揚枝挿とお菓子紙漢ゝて来「遠
往ゝ。「ト出「コウく。「家の内の娘はどれぐ。「ア」。博多織を
見てゐる女。まつちふ居る筈よ。「ウ」。あれふゆさるく往ぜヲ。

めつやうぐゞ。あゝとあゝうさてきゝ代物ぐヲ。「あれで優
書義盛縫計ハ往。何ても遊義ぶとの。「も去ゝねと
いふゝとふ女ぐゞ声をきうせて。そうやアらう見をまうさ
往奴ハある女。「まつい声ぐの。「ヲヲ」美しい声よ顔の通
アぐ。「十一のとゝ出生ぶよゝて。今年二十一ぐぶ。お屋敷人
法華の師匠紙修ゝせて習ふぐト。「お屋敷のめのいふう。
「十二ヲ」。こんか宿ゝゝとるぐ。「ナント持ゝ奴ハ遠ふの。「それぢやア
ぶんさうふのんぐ。金紙まいて法華の師匠紙寄て習ふの

どうゝ。何器でも生まるゝぞ。何もあの娘ぞうりぢや程。
おれふでも生まるさん西又孫じく程へるもあるめス。「まへでも
義ゝくて利ぶで。万能ふ達ゝてある女ぞうゝ。外ふ沢山其
よ。「そんふ奴ハ居て丙午ふ者ぞ。「遠方へ「なるくらちハろ曽
ぶ狸いぜ。それぢやア英英程へぞ。「あの女ハ待ス待ふゝと
ぶ。如とうふ物ハ狐の入るんぞ。男れるでヲヤ。手拭の
師匠へさうけよてふ限ゆとろ又ハぞ。未綿物で来季胆
郎ふ多き生きアス。サア如ふるでヲんさうゝ。金持ハ行ぞ。

首の天道ふうゝ。この底へまで金ぞ。のうて。積貯るのふ狐ぞ
入るゝ。ソリヤ世界ふ。家で支度ふ入て。又なを中毎日稼ぞ。
あげ句の果ハ他人ふ唯をるのぞ。家で又支ぞ入てまぢるゝ
づゝと云さ行ぞ。姫様金の入るゝぞうゝ。生れてゝう弱さ
金のあるのハ如ぞ。「あつも貧乏人の娘ハ又とうかりんで狐
ちうふを殺さる。「ちゝ。娘の分の腹ふ入ぢつて食つも
人ぢやア程。「新の役ぢやア程の。「あんまり生来さ程奴よ。
「ナント。夫ゝど金とうけて他ふ呉ゝて居るも智恵ぞ程ぞ。ちら

あらば保ふしてきてくれス。ハヽヽ。△長ゝそうふ。[illegible]と
美女あるゝ牧りしぐ。女ハ[illegible]
さうさ。ハ牧さんるぞハ怪[illegible]心のきだろうぐ。[illegible]で安ぐうるせ。
[illegible]やあ。ア。悪い女でもまあ[illegible]のアんるのものやうでもよ山
とろのふ女中ハ[illegible]で[illegible]の物ぐ。[illegible]ハどうもいと
ちふ。安[illegible]ふ又。[illegible]ぐ勇ぐで。潮来でも山きに唄ろ
て。安さんるんぐ。[illegible]ア香ぐよ。宮ゝくナてんね[illegible]ぐ。どう
で有馬の人形[illegible]べう業[illegible]ぐれ[illegible]ぐるんぞとおそん

だろふ女ぐうく。[illegible]さうしさ女ハてこ[illegible]ぐうりまと[illegible]安といひ
女ハ。ハテ[illegible]だうりで奥ハ[illegible]ぐ。[illegible]まづいぐ。出来[illegible]
其ハ[illegible]ぐでさ[illegible]物ぐ。[illegible]ハてこ限[illegible]ハ[illegible]
ぐぐ[illegible]でもよこ。和文でも[illegible]女ハ[illegible]の[illegible]
ハんぬ[illegible]ふあこぐ[illegible]ハてこ恨りの[illegible]でも生[illegible]
の[illegible]で[illegible]ぐうりやも。[illegible]
あさう強合せよう。トうで[illegible]ハ[illegible]ぐ[illegible]で
よ。○役者の方のがくやあ[illegible]

もあり。あらんでギックリきるもあり。夜店方の紫をはくれバ。床山がら
はくるもあり。中紙のうち役。さし出しの役。口上。後見。新手番書。よび出し
引て見るわけのこともあまたあり。さし金をはらくて見るひとも多くあり。手まく紙
おて左りへ見る人。浪板をさくえて右へまさうき大道具山の道具方。さしがね
志らぬ大きなぎさあて。かぶりもの紙にそげバ。順五役ハ
役割のびら紙お身がら。志なくのあさ紙小さ紙にぬり。「ライ〳〵順五さん〳〵。
よぶ「ふんどし〳〵。ちからさ大夫の床助ハ地主の倅し。順五役とるり。かけ見とて大さらまぜん。「床山〳〵。床山とへ
ろくをはけ髪を結ふ人「ヨイかんてらどう〳〵。秋「アヽ竹が咽ねへきり〳〵せう
ぜ。ゐんがおが出いとつてあげまり進へ是おやア幕をぬうさへ
網る人。「アイもし。道具達ハおひまでさ。夜「手燭を小道具
メて十二本さ。「アイ。夜「ヨイ志う廿紙おてくんな。「まだ〳〵。

支度ハ出来ねへ。夜「趾寄紙をひきさんさ道具のおさきろ
せざらな。春「ヨット湯り。トーらひるがら作粧してみる春瓶「よしろナ。本紙へ咲るぜ。
チョン〳〵。玄「ろんごあくをまわりきます。扇がちり〳〵までたのこあらのし
らく一件大市さ高へ八。換料借のかくつなるむぎ。むりにはつさま
とるゆゑか。この下へこつつるそて。コウ〳〵 湯練さんあさるが割する
りさえゑがらくゆき角をららえそ
ゆうざ。「劉ぐらへあせざ。おめへ頭痛がさるか。玄「かづらがちつと
少さひくら天窓紙食てゐる役へ。「鼻緒ぢやアあるめへし。
髪をさげあ吾バい。玄「遠役へ。モウどうもたまらねへ。口を
きく度に小鬢へひゞいて目鼻を引切られるやうだ。是ぢや。

せう姉、きさうも極。「おまんくさ物ぞ。俗が好くるのにきさのは」
脚ハ惜ぞ。「コウ酒屋ぢやア極。「おめく如在もるて酒をた
さめ、給ふ。「まも第ぞ。絞を捻むと鬢が這入ら極。
「そりやア。おめくの手家れ大きいのぞ。髪ハお宝りさハが。「アイ
大屋さん。おこのんやくこのか。大きの大屋さん。「ア
ケ。見物が笑ハ。ハ。ハ。ハ。ハ不礼講ぞうも洋で狂をもる
のぞ。さもあけりやア。地主さ屋でハ老実でのるのぞ。地主の
姉ハおれぞ手習常ぞハか。些ハりしてもあらうス。如

在もあるてうに。おめくさうきさうにて。ちやア。海やくぢやア極くう。
おくうア既ものくぞ。三極ぞうにてぞの。「行時極班
番ひとりでもるのぞ。「ア」ん。よりやもう屋さの極きう
あとちうう。ア紙極ら極で幕と早くせうとちうう。大体
きぞ貴ぞ形もるるうちやア極。「おう体さうでハぞのません。
「サア」く。手紙早くさうあ。ハてぞの。見ぞまる。「それも同
ぞまうりさうぞ。ソコデ手よ。「サア」く。早く高極。「酒を呼ぶハ形
あうぞ。コウ浸生ぞ。酒と一盃のまして仕樂屋と極酒

とハさりとハ悪洒落さ。「洒かく。そ茶碗で一盃持て来よう。
「コウ〳〵。迚もの事に二三合さ。「そんな不勝で飲みや殺気に
酒ハ悪い。「一挺腰ぬけ骨くなりに。そこへ車輪玉。「よし〳〵。コレ〳〵
十助どん相まいけて居ろ。ソレ奉天中おさなりにおかぶ衆が働
居るからのおそれがあるによつて一跡子提て来てくだせへ。「ハアイ。
コレイ人形の子。「きつと居るでさ。「へ文始くさ。それから首
打附くるぞ。此中ハあらゆるだらけて他人と魂消させる気。
小ハア蟒蛇か。捏く小僧の再従さ。「ト いゝながら 奥へ行。「サア急ぐぜ。

見物があるまいが。桟敷人ハ声色連を詰んで。おまえさんを強か
いそがしかろふ。数奇をこのんでさもなくてある世人が好かぬくてハ
あきるかな。老くちる者ハおれ一人さ。「いつでも好がまあまゝ長ら
仕組がるまでゞまるまでふかくろく悪漢ぢやア無さ。「此眉ま
ぬけぬかくのが素人狂言の山さ。アヽ一口めのまづくと両手がらう
ぞる。こちらの方でハ浦藤 女形の様。「アいさ。アい〳〵。「わとそでよく
兼山が[illegible]紙をもちりとそある。「悪く家ぢやるといふ大事の詞さ。
ちやと此堂の円卒抱しか。家人の縁さ。アイタ〳〵早く〳〵。「藤[illegible]
アいさアイタ〳〵。

西面ふまへり　おつとつんそ　待ねへよ。お前の顔ハ拵方がある。さがり目がとろ
目をどろりと轉ら種へちやアならねへ。ト目紙つけて　くろをつける「アイ〳〵是く
どうするく。面を為衣ふ貪付れてあすぐ。「コウくめり過ぜ。
「お前へ新造婆々でゐるまいり。芝居の方言。「若れさるさ。「唐
理で野暮ふ痛がる。「シウドく。ア、痛い皮切ニ手ハ押て黄
て久。「遠種へ。「ハア萬しく。新参一人のおいらん。ひげおの
あぶれふある面だ。「シヤいやだのう。ト女の「大笑い「ヨウトく。
そこ細じきますへ。トあそこ良く「ハツトよかのく「サアくさんぶり砕の水

となぼしさ。「大河く。「と雛やく。「ヨウトこれ吐さん態
智恵あり。トたゝきの目へつめをいれて　手紙帝へひろげる「其紙ハおれが拭く。ト手拭が手
ねがひで紅白粉の「そつと　顔まる手紙をさき　ときくおく「お客を好く。おれが息でふるへし。
一向手に指ろぞ。トはひ手ぬぐひ取るそ。ひろげてある　ヤア。トひろく是ハ雛巾
ぢやア種へ。おれが手拭だ。是でも百八文出して十寸に裁たの
手拭だ。悪の鼓ハ怨もんだの。おそろしく。ト以下八兵衛代 徒弟萬「唐助
さんざうさ。幕ハまだあきませんか。「ハイ只今。「サアく
序幕の面ハ持つたの。「サアよし。「若子衣紙打よ。「サアく。

おぢやの。「チヨシく。」「サテ揚幕へ出る者八早く出んか。」「ヨシく。」
なうく。送りハ誰ぞ。「私ぞ送りませう。」「私も。」
「私も出ませう。」ト申上ける「急ぎ出ちと留
ぐるなら。一重うけくら早く出よ。」「第和く。」「口上八
どうぞく。」ト云ひ「幕を出る」「サテ和ハ是ハ役者とするなら。
おハなりくふ濃らう。」「口上ぞ役者ぜ。皆役者にするなら。」
くぶ役。「竹内声色連中くへ」「幕を出る」「ナヨボのなの日
ぢや。私ぞと口上言ふなの。」「なるくハ上方詞ぞう揚ろ

口上おいとうらうぞ。歌舞伎奴ハめう役へハテ家のつう役く
るなら。「モシ。私イ言ふまうぞ。今日ハけうふ賀相で
ござりやと。おめくさるもの。どるるもおひるまして。「ア
コレく。其口上ぢや役。「コレく」「土助。酒ハく。」「酒ぞう。」「口上
が喉ふつけて。左助さんてんてまい舞ぞ。ソレ酒一杯ぞよ。ソレ
硯蓋ぞどんぶりく揚込でぞ。コレイまで揚んぞう。揚く
茶酒ぞ出えびふ。嘗くく揚込んぞ。其茶酒汁嘗ても
うまさうぞ。こてくらハ役へうら。蒲鉾ぞと鬼ぞう燈ハ。

途く食て早くうまうまうまく姑と獅子の蓴汁ばかり呑て。「エて
きて家。テモ情なのこと成さる家。「ハテ物ハ無まにぶち出さぐ
いき。主ぐ口ざるて先食でもあけるもあ。コラーイ口ぐわ上人さ食
でも極。トいふ思ふ唐助「サア〳〵口よで上人ごつきぐ。兼て食の方で六声〳〵に
「所ぢさえ。「ヲイ〳〵。コレ是家にて進ぐ居ることろうて来
ぐ。「主人ハ極。「盲人ぐ。隣屋敷の三弦弾ぐ居る。
「べらぼうめ。エヤト。雛子の内ろ拵ろう。トいふ思ふまで出者の「何
で居ます居ます。「イエ。口よで居ます。「ハテ。三弦ぐ

そ相ハ繁いお方ぐござりまると。「ハイ〳〵。ぐ家でも口よの
業ある方ぐ家やこの三十ろいる。「ちまくも出者の雑者で
口よ成いろ世てとろめ。ちくつぢつまぐ合て。多くの信ふ
内口よ成いふ方ハぐざりまと。それゆ名ふ饗ぐの品
ハ幕一所や小僧どの遠慮で。ちんとろに口よとふ者ぐざ
ぐまりた。「ハテ。どうろ乃遠ぐ。「ハテ。
出家の女隠居極さ。「ちんのつまら極ぐ成いふ。トあく自て大
名ゆえと。△昨の又義とふ又きふせきこと又
ちる更。「ろうその口よハ。ろう私ぐやまたろう。「ヲ。

紋縫だ。おめへ叱るぢやァ稽古へ。わちやァ云ふ。對へ申すろ「太

ちやァ居られ様へ。トいふ所へ謙吉郎より「頭取さん〳〵。唐「アイ〳〵。今〳〵。

番さん。「ヨイ小声でいまくしいやうだ。トのおせよえて寄るところ又「頭取さん。

一寸来なせへ。「出さた番さん。「ゆるえますせぬ。唐助さま。どもの又兵衛

「モシ〳〵。さうつてはどうだ叱るどれど。どうかの叱とらずのは。ふらり

節るのは叱りませぬ。唐「なく。そんなことをあんでもいゝ。早く

上げなさいて。トそこらをさまつ。上もかもを卑し サア〳〵お立紙を様かく。ト

あてさうぐ由来又兵衛 せきこんでいふくどの 又「おんやの此。か〳〵上下紙きそうきて出るの子。

唐「さうさ〳〵。ソリヤ褌腰がどうでもいゝ。口上へ真向だろうぞ。

又「よく〳〵横をふりむくことはならぬ事。唐「ナアニサ。サア〳〵此

紙をひろげてよむのだ。サア〳〵来さつし。ト謙吉座へ出て来る口上の又兵衛蝦蔵へわたる

せりふをくちさきで。出ようとするをおさへて。幕の外へ唐「コレ〳〵。口上八独で出るのぢやァ稽古へ。

又「ふたアり連の子。唐「ナニサ。おめへ六家に此紙をひろげて喋つ

て居るだ。ソレ此幕を揚げるとよく〳〵そこで吾方から幕

をちよつと揚て。おめへの後へ幕紙せうから。おめへさせつて合形で

幕の外へ出る。ソコデ口上ス。よろ。其後は上さをうと平伏を

さるト。又あの方から幕を揚るとソリヤ迎ようと。吾妻の。
又 考よ考よの弟子く。店べら吾さん。さるぎ唄ごよ。べら吾 さる見
ぎの幕明。百も弟子。店サア紙。アまぜの返〜〜。チョンく。ト
お紙いれる △役者ぶるこふ幕ぬて。店ソリヤ。又三蔵さん。ヒキツカケごよ。又三蔵
どぐん蔵くあわつて。ぶるくこぶるひを〜ゐぐう。紙をひを。
おちうの稲田姫といふ文でゐる。役割のうきうけぶるくとふるふあり。
チョンく。幕紙ちうと
あげると 見物あまくあ人声 イヨ上ウリ

見西く。見よりう幕幕。素人狂言のあり。絶句とちり
もうあこのあり〜こふ。とあぐきゆ。初編ふとまるぐ。見高
ちりの幕ふりそぐめて。見物男女の人情をぐて。ちり〜こ

多つぶり紙着〜て。寄席二編ふ要〜ちうぐ〜。仇
万福の狂言ふはつく。江戸のあ変れるゆ。注見物孫方八
いたにおよぐ。別〜く。樂屋の化粧あ。車に積ておつる
〜の表。塩梅の外の役役ち。

本町二丁目
式亭三馬

素人狂言紋切形初編巻之下終

戯作者 式亭三馬戯作

浮世画師 歌川國直狂画

筆者 藍庭晋米

當年新雕

式亭三馬戯作

古今百馬鹿 初編 二冊

中形絵入おり〳〵きよゝ本二編より追〳〵出板

本絵入

美濃舊衣八丈綺談 全五巻

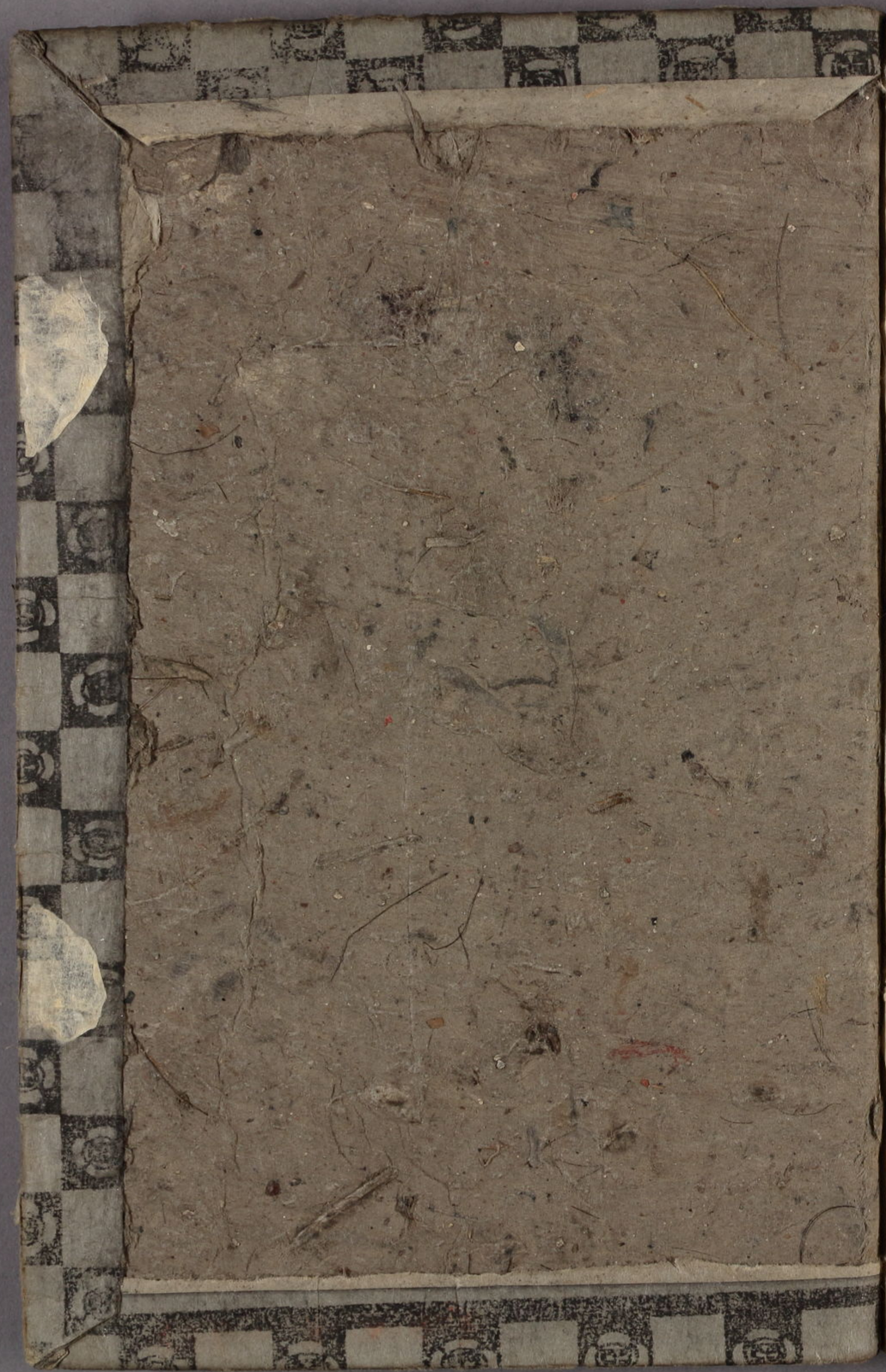
馬琴作
北嵩亜

この物がたりも又ちゝ子ゆゑ世に出るものゝ八丈縞と称する中葉八丈絹と称するものゝ美濃の八丈より織出せる所ゆゑ八丈縞とは云ども八丈縞とは云ども八丈縞とは云ども因果のめぐりあはせるとはいひながら又ちゝ子ゆゑ世に出るものゝ八丈縞と称する中葉八丈絹と称するものゝ美濃の八丈より織出せる所ゆゑ八丈縞とは云ども八丈縞とは云ども因果のめぐりあはせるとはいひながら

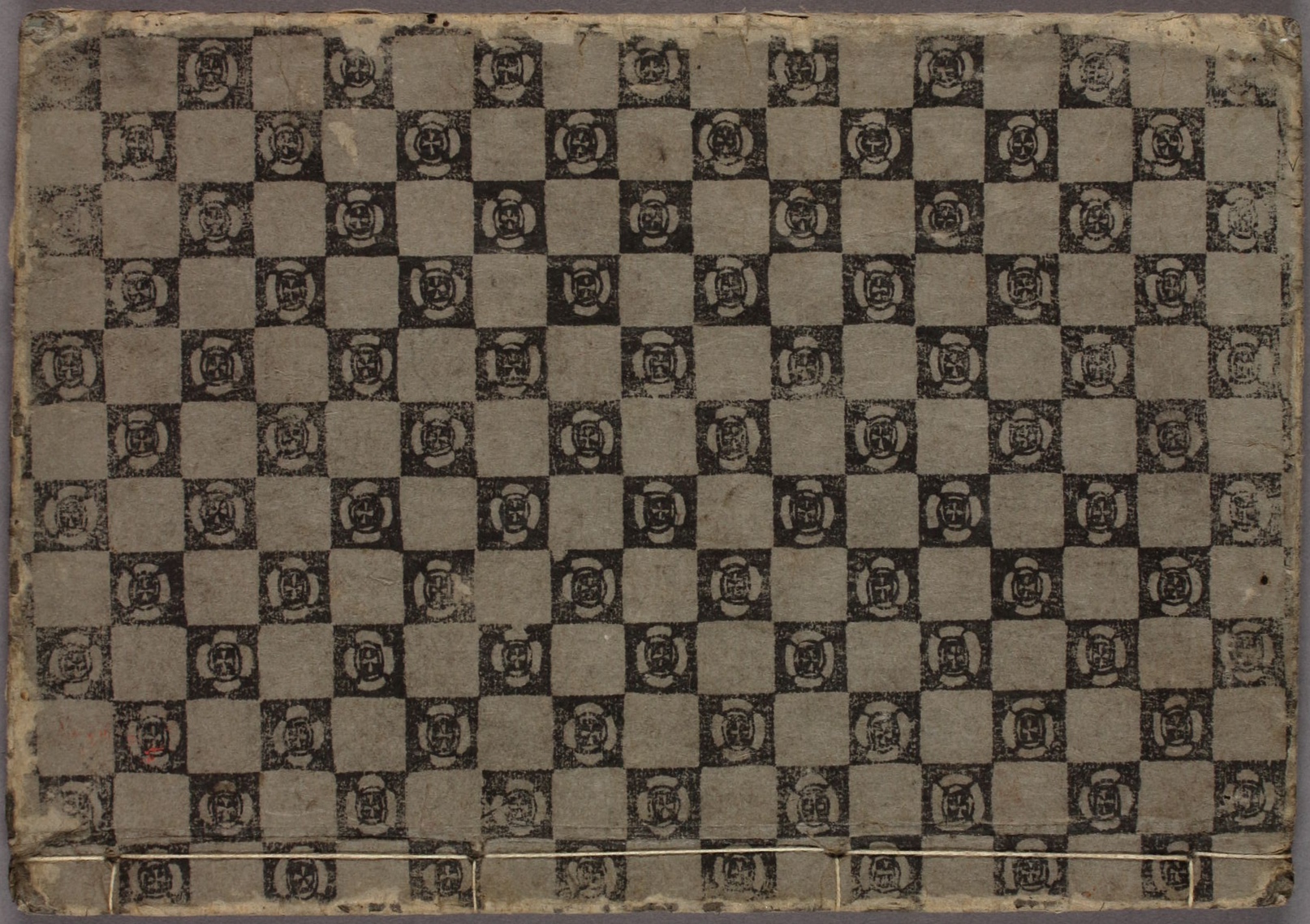
文化十一年
甲戌春正月吉日

江戸書賈

通油町 蔦屋重三郎
室町二丁目 越前屋吉兵衛
筋違御門通平永町角 山崎平八版



新年
謹賀
美濃舊衣八丈綺談 全五卷
北馬琴作
中村宿 二編 出版
[illegible]
文化十一年
甲戌春正月吉日
江戸書賣
通油町 鶴屋重三郎
室町二丁目 越前屋吉兵衛
[illegible]
平八版

式亭三馬
たん百

柔女小遠の田
柔人く